

図 V-B-21 O脚とX脚³⁾

足部内側縁が接するように基本的立位姿勢をとり、下肢全体が外側にカーブした形状をなすものをO脚、下肢全体が内側にカーブし左右の足部が開く形状をしているのをX脚という。

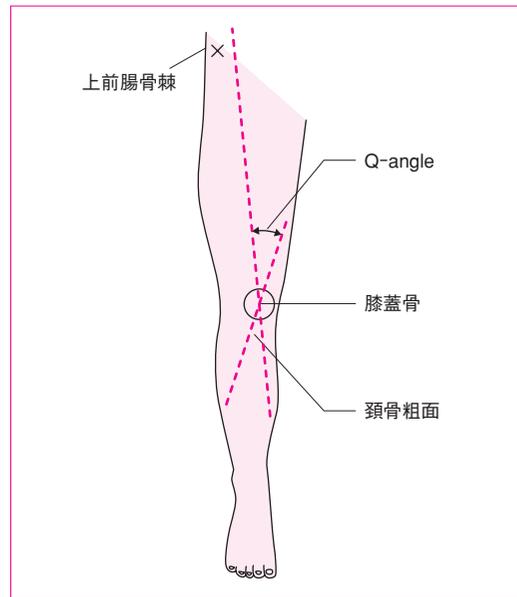
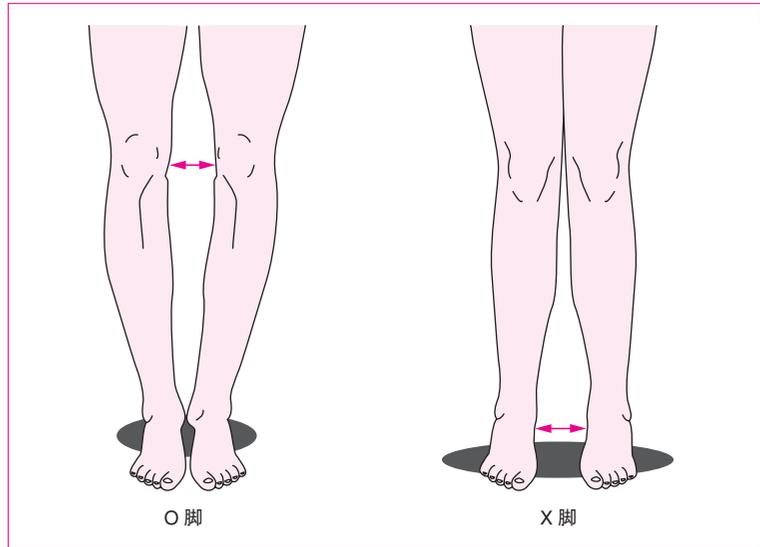


図 V-B-22 Q-angle⁴⁾

上前腸骨棘と膝蓋骨中心を結んだ線が膝蓋骨中心と脛骨結節を結んだ線となす角度。

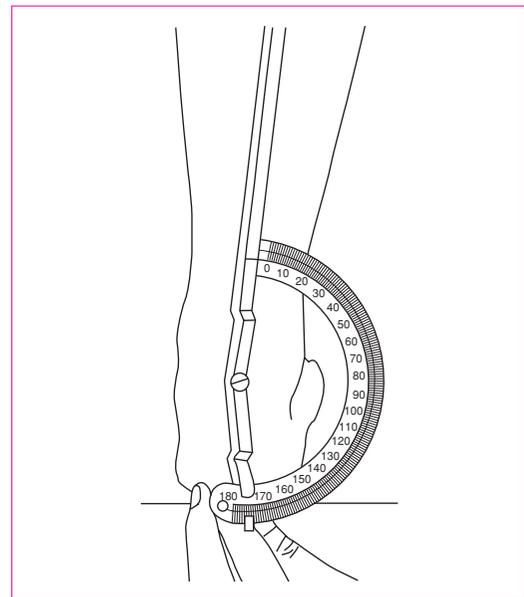


図 V-B-23 leg-heel angle

測定は下腿後方より行う。下腿遠位1/3（あるいはアキレス腱）長軸線と踵骨の縦軸線の交わる点を軸心として角度計をあて、2つの長軸線がなす角度を測定。

骨の縦軸線とがなす角度を測定する。明確な評価基準はないが回内足や回外足の評価の目安とする。回内足は踵部が外反した状態をいいアキレス腱の走行が踵部で外側に変位する。回外足は踵部が内反した状態をいいアキレス腱の走行が踵部で内側に変位する（図 V-B-23）。

4) 扁平足と凹足

足のアーチには内・外側縦アーチと横アーチがあるが、扁平足とはこのアーチが低下した状態をいう。縦アーチが低下したものを縦軸扁平足、横アーチが低下したものを横軸扁平足というが、通常、扁平足は縦軸扁平足をさす場合が多い。立位にて内側縦アーチ（土踏まず）の有無を観察してアライメントチェックを行うが、

正確な診断にはX線検査により荷重時の足部側面像から足の各骨の位置を判断する横倉法がある（第3巻、136頁参照）。逆に凹足は内側縦アーチが増強した状態をいう（図 V-B-24）。

5) 開張足

横アーチが消失し前足部が扇状に広がった状態をいう。第1・5中足骨間の角度が開大する（図 V-B-25）。

6) 外反母趾

体軸を基準軸とした際に母趾の中足趾節関節部分で基節骨が外転・内旋し第1趾が外反した状態をいう。さまざまな要因が組み合わさり発症するが、ハイヒールの使用、遺伝的要因、また扁平足などに伴い発症することもある。また